

【第36号】

白河地域在宅医療 拠点センター通信

令和3年1月発行



一般社団法人 白河医師会
白河地域在宅医療拠点センター
副センター長 杉原常夫
〒961-0908
福島県白河市大手町 3-8 レジデンス楽市 I-105
TEL:0248-21-8923 FAX:0248-21-9267
平日 8時30分～17時15分（土日祝日休み）

新年のご挨拶 杉原副センター長



皆さん、新年あけましておめでとうございます。

昨年、新型コロナウイルスのため、予定していた研修会・講演会等が、半分以上中止せざるを得ない状況でした。また、企画しても出席者が感染を恐れて人数が集まらなくて開催できなかったこともありました。そのような状況の中で、実施させていただいた研修会・講演会等にご出席くださりまして誠に有難うございました。

この白河地域在宅医療拠点センターの事業に関しては、一般市民はもちろん、市町村・医療機関・介護事業所等の方についても十分に理解してもらえてない状態です。令和2年度もあと3か月ほどで終わりになりますが、コロナ感染症が収まらない状況下で、予防対策を万全にすることができる限りの事業を行ってまいります。

また、令和3年度に関しましては、厚生労働省のほうから示されている、(ア)から(ク)の事業を行いながら、一般市民・市町村・医療機関・介護事業所等の方々に白河地域在宅医療拠点センターの事業内容についてのご理解とご参加をお願い申し上げます。白河地域在宅医療拠点センターの事業のご理解とACPの普及に努め、在宅医療についても積極的な取り組みを行い、皆さんが安心して住み慣れた地域で生活ができるように支援させていただきます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

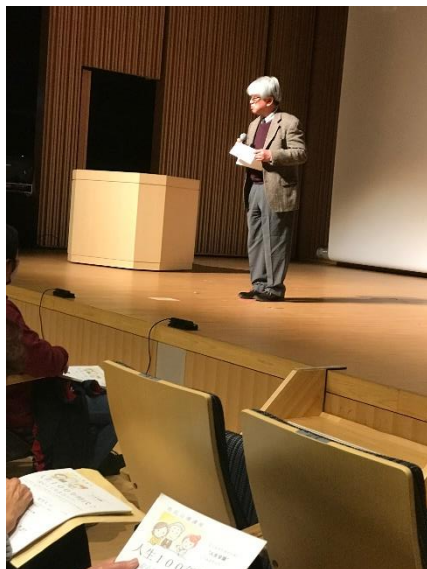
市民公開講座『人生100年時代！安心して生きるコツ』が開催されました

コミネス小ホールにて『人生100年時代！安心して生きるコツ』と題した市民公開講座が11月30日(月)14:00より開催されました。今回、400名近くの参加希望者がおられました。コロナ感染症対策のため定員の6割程度に抑えさせていただきました。

当日は白河医師会会長で白河地域在宅医療拠点センターの関元行先生の挨拶で始まり、白河厚生総合病院総合診療科 東光久先生の講座、続いて「劇団あずま座」による寸劇が上演されました。寸劇の後にも、東光久先生の振り返りが行われ閉会となりました。劇団あずま座はACP(アドバンス・ケア・プランニング)ワークグループのメンバーに加え、白河地域消防本部隊員2名に特別参加いただき、医師、看護師、ケアマネジャー、消防隊員が劇団員という素人劇団ではありますが、それぞれが普段取り組んでいる本業の強みを生かしてリアリティのある寸劇になったのではと思います。

尚、当日参加できなかった方のために、当日の講演、寸劇の様様をYouTubeにて公開しております。

アクセスのためのURLはFACEBOOK(2020/12/28)でお知らせしておりますので、お時間のある時ご覧いただければ幸いです。





ACPコアメンバーグループワーク

第44回ACP(アドバンス・ケア・プランニング)

ACPしらかわコアメンバーによるグループワークが11月16日(月)16:30より、コミネス練習室で開催されました。

今回は11月30日(月)開催の市民公開講座『人生100年時代！一安心して生きるコツー』寸劇リハーサルのため、コミネスの練習室をお借りして、消防署職員2名の方を含めたコアメンバーの出演者全員と舞台監督、照明の方に参加いただき、本番を想定したリハーサルが行われました。

会場のコミネスでは新型コロナウイルス感染予防の観点で、入り口には自動の体温測定・マスク着用の有無を確認する機器、そしてアルコール消毒液が設置されていて、感染予防に工夫が図られておりました。

リハーサル中は舞台監督の和知氏より、場面毎の演技指導が入り、参加メンバー全員が課題を共有することが出来、良いリハーサルとなりました。

第45回 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)

ACPしらかわコアメンバーによるグループワークが12月21日(月)16:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。内容としては、令和2年11月30日(月)に開催された市民公開講座『人生100年時代！一安心して生きるコツー』の参加者アンケート(大変好評でした)の発表と、当日上演された寸劇の様相をコアメンバー全員で振り返りのビデオ鑑賞を行いました。

ビデオ鑑賞後には、演技賞の発表が行われ4人の方々が表彰を受けました。表彰者は、主演女優賞に本田陽子さん、助演女優賞に鈴木日登美さん、監督賞に和知健明さん、声が良く通りましたで賞に五十嵐光枝さんでした。

出前講座

第二回白河地区介護職員研修会が開催されました

白河地区訪問介護職員協議会の介護職員の方々への研修会が11月17日(木)18:30より泉崎村中央公民館の調理実習室をお借りして開催されました。

今回の研修は管理栄養士で福島県栄養士会県南支部長の三森美智子先生を講師にお招きして「高齢者向け食事について 制限食をどうしたら食べてもらえるか」というテーマで、実技研修会(調理実習)が行われました。

三森先生の講義の後、参加者16名が4つのグループに分かれ、レシピに従い調理を行い、各グループともに課題の4品(肉じゃが、ほうれんそうの磯和え、なめこ汁、ヨーグルトとフルーツのデザート)を作りました。

調理にあたって、参加者は検温はもちろんのこと、入念な手洗い、調理器具の清掃を行い、調理を行いました。

約1時間の調理の後、参加者全員で出来上がった料理の試食を行い、味付けなどの評価を交換し合っていました。

参加者アンケートでは、「自分の事業所でもやりたくてもやれなかったことなので、すごくためになりました」「少ない塩分でこれだけ美味しく食べられて驚きました。現場でこのメニューを取り入れたいと思います」など、さっそく実践の現場で活用したいなどの感想が多く寄せられました。



12月4日(金)中央老人福祉センターで出前講座が開催されました。

講座のテーマは「介護保険制度、アドバンス・ケア・プランニングについて」で、白河在宅医療拠点センターの杉原常夫副センター長が講師を務めました。講座には「いろりの会」の17名の方々に参加されました。

冒頭、杉原副拠点センター長より、在宅医療拠点センターの紹介がなされ、テーマの介護保険制度については、その創設の経緯、仕組み・内容について説明が行われました。続いてACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは何か、なぜ必要かについて説明が行われ、最後に、グループワークとして参加者全員で人生の最後に大切にしたいことが記された「もしばなゲーム」というトランプカードゲームを4人一組で行われました。

講座終了後のアンケートでは、「勉強になりました」「終末期医療の難しさを実感しました」「ゲーム(もしばな)で捨てがたいカードがあったがよく理解できて楽しかった」「まずは夫婦で話し合いをしたいと思います。次は子供たちと」など、意見が寄せられました。

